



東大発スタートアップの株式会社 Lily MedTech が、NEDO-PCA に採択され、 約 2.4 億円の助成対象に決定

リング型の超音波振動子を用いた革新的な乳房用画像診断装置の開発を行う東大発スタートアップの株式会社 Lily MedTech は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下 NEDO）が実施する、2020 年度「研究開発型スタートアップ支援事業／ Product Commercialization Alliance（PCA）」に採択されました。



■ 採択された研究開発テーマ

株式会社 Lily MedTech が開発する乳房用超音波画像診断装置は、ベッド型をしており、ベッド上部に空いた穴の中の水槽にリング状の超音波振動子が搭載されています。女性がベッドにうつ伏せになり、乳房を水槽に入れることで、乳房全体の 3D 画像を自動で取得できます。非接触のため、マンモグラフィのような圧迫による痛みはなく、超音波を使用するので被ばくのリスクもありません。また、乳房を下垂させた状態で自動撮像を行うため、操作者に依存せず、再現性の高い画像が取得できるという特徴があります。

今後国内外へ装置を広く浸透させ、より多くの女性が乳がん検診を受けやすい環境をつくっていくため、当該事業のコスト改善のための改良開発を行ってまいります。

■ NEDO について

NEDO は、持続可能な社会の実現に必要な技術開発の推進を通じて、イノベーションを創出する、国立研究開発法人です。

リスクが高い革新的な技術の開発や実証を行い、成果の社会実装を促進する「イノベーション・アクセラレーター」として、社会課題の解決を目指します。

■ PCA 助成事業の目的（PCA 公募要領より一部抜粋）

本事業では、提案時から概ね 3 年後までに事業化による継続的な売上が見込める事業計画と、確度の高い資金調達計画、それらを達成するための体制（社内体制・外部連携体制等）を有しており、かつ事業化を達成するために助成金の必要性の高い企業を支



援することを目的とします。

※<https://www.nedo.go.jp/content/100917364.pdf>

■ Lily MedTech について

女性に優しい乳がん診断を目指す女性起業家による東京大学発のベンチャー企業で、2019年12月9日に「第一種医療機器製造販売業」の許可を取得、現在は量産体制の構築と、発売に向けた社内体制の構築に注力しています。

東京大学医学系研究科・工学系研究科での研究技術を基に、リング型の超音波振動子を用いた革新的な乳房用画像診断装置「リングエコー」の開発を進めています。

現在の乳がん検診には X 線マンモグラフィやハンドヘルド型の超音波が用いられていますが、マンモグラフィは圧迫による乳房の痛み、X 線照射による被ばくリスク、デンスブレスト（高濃度乳房）に対する検出精度低下等の課題があり、ハンドヘルド型の超音波はがん発見が検査技師の技術に依存するという課題を抱えています。これに対し Lily MedTech のリングエコーは、被ばくリスクや圧迫による痛みがなく操作者の技術に依存しない装置として期待されます。

仕事、恋愛、結婚、出産、育児など、公私ともに選択肢が多い世代の女性が、乳がんによりその選択肢を奪われないよう、また乳がん罹患前と生活が大きく変わることはないよう、少しでも貢献したいという想いで日々開発を進めています。

株式会社 Lily MedTech

所在地：東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学アントレプレナープラザ 701

代表者：代表取締役 東 志保

設立：2016 年 5 月

URL：<https://www.lilymedtech.com/>

【本リリースに関するお問合せ】

株式会社 Lily MedTech

担当：和田

Email: pr@lilymedtech.com